

令和元年度病虫害発生予察予報第2号（5月）

令和元年5月10日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生面積（地域名）
水稻	イネミズゾウムシ スクミリンゴガイ	<u>やや多(県下全域)</u> <u>やや多(県下全域)</u>
かんきつ類	黒点病 カメムシ類	平年並(県下全域) <u>多(中央、中西、西)</u> 、平年並(東)
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	平年並(中央、中西)、やや少(西) <u>多(中西)</u> 、平年並(中央、西) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、平年並(西) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、平年並(西) <u>多(中央、中西)</u> 、 <u>やや多(西)</u>
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 すすかび病 タバココナジラミ	平年並(県下全域) <u>多(中央)</u> 、平年並(東、西) 平年並(県下全域) 平年並(東、中央)、少(西)
促成ピーマン、シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 タバココナジラミ ミナミキイロアザミウマ ヒラズハナアザミウマ	<u>やや多(東、中央)</u> 、やや少(中西) <u>多(中西)</u> 、平年並(中央)、やや少(東) <u>多(中西)</u> 、少(東、中央) 平年並(中央、中西)、やや少(東) 平年並(中央)、少(東、中西) 平年並(中央)、やや少(東)、少(中西)
促成トマト	葉かび病 うどんこ病 黄化葉巻病	<u>多(中央)</u> <u>やや多(中央)</u> やや少(中央)

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台 5 月 2 日発表）

5 月 4 日から 6 月 3 日までの天候見通し

<特に注意を要する事項>

期間のはじめは、小雨の状態が続く見込みです。

<予想される向こう 1 か月の天候>

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう 1 か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに 40% です。降水量は、平年並または少ない確率 40% です。日照時間は、平年並または多い確率ともに 40% です。

週別の気温は 1 週目は、平年並の確率 50% です。2 週目は、平年並または高い確率 40% です。3 ～ 4 週目は、平年並または高い確率ともに 40% です。

<向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	20	40	40
		降水量	40	40	20
		日照時間	20	40	40

<気温経過の各階級の確率（%）>

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1 週目	四国地方	30	50	20
2 週目		20	40	40
3 ～ 4 週目		20	40	40

<予報の対象期間>

1 ヶ月：5 月 4 日（土）～ 6 月 3 日（月）

1 週目：5 月 4 日（土）～ 5 月 10 日（金）

2 週目：5 月 11 日（土）～ 5 月 17 日（金）

3 ～ 4 週目：5 月 18 日（土）～ 5 月 31 日（金）

II 病虫害発生予想

1 水稻の病虫害

1) イネミズゾウムシ

発生量：やや多（県下全域）

根 拠

(1) 南国市、四万十市の防除適期決定圖では、4 月下旬から発生が見られている。5 月の気温は平年並～高めと予想されているため、今後、活動が活発になると考えられる。

対 策

(1) 箱処理剤を施用していないほ場で、発生が多い場合は本田防除を行う。

2) スクミリンゴガイ

発生量：やや多（県下全域）

根 拠

- (1) 暖冬であったことから、冬期の死亡率は低く、既発ほ場での越冬量は多いと考えられる。
- (2) 5月の気温は平年並または高めと予想されているため、今後、活動が活発になると考えられる。

対 策

- (1) 発生水田では田植後2～3週間はできるだけ浅水管理を行うとともに、高密度の場合は薬剤防除を行う。

2 かんきつ類の病害虫

1) 黒点病

発生量：平年並（県下全域）

根 拠

- (1) 前作の巡回調査では、温州みかん、中晩柑類とも、ほとんどのほ場で発生が見られていたが、5月の降水量は平年並～少なめと予想されているため、平年並の発生になるものと考えられる。

対 策

- (1) 感染は、枯れ枝上に形成された胞子が降雨により分散することにより起こるので、落弁期以降、200～250mmの降水量を目処に薬剤防除を行う。

2) カメムシ類

発生量：多（中央部、中西部、西部）平年並（東部）

根 拠

- (1) 4月のフェロモントラップ調査（安芸市、香美市、須崎市、四万十市）では、安芸市を除いて平年より多めの誘殺が見られている。

対 策

- (1) 花、幼果を吸汁されると結実不良、落果の被害がでるため園地での発生に注意し、飛来を確認したら薬剤防除を行う。

3 促成キュウリの病害虫

1) ベと病

発生量：平年並（中央部、中西部）、やや少（西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中央部、中西部で平年並、西部はやや少なめであった。発病程度は中西部、西部は平年よりも高く、中央部で平年並であった。
- (2) 5月は平年に比べ晴れの日が多く、降水量は少ないと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

発生量：多（中西部）、平年並（中央部、西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中西部では平年よりもやや多め、中央部、西部はやや少なかった。発病程度は中西部では平年並、中央部、西部では低かった。
- (2) 5月は平年に比べ晴れの日が多く、降水量は少ないと予想されているため、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) 黄化えそ病

発生量：多（中西部）、やや多（中央部）、平年並（西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中西部で平年よりも多く、中央部で平年並、西部ではやや少なかった。発病程度は中央部と中西部で高く、西部は平年並であった。
- (2) 巡回調査では先月以降も県下全域で新たな発生が見られている。気温の上昇に伴い、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が盛んになるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行うとともに、作の終了時には保毒虫の分散を防ぐため、蒸し込み等による防除を徹底する。

4) ミナミキイロアザミウマ

発生量：多（中西部）、やや多（中央部）、平年並（西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中西部で平年よりも多く、中央部で平年並、西部ではやや少なかった。
- (2) 気温の上昇に伴い増殖が盛んになるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、作の終了時には分散を防ぐため、蒸し込み等による防除を徹底する。

5) タバココナジラミ

発生量：多（中央部、中西部）、やや多（西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中央部と中西部で平年よりも多かったが、西部では平年並であった。発生程度は中央部、中西部で平年よりも高かったが西部では低かった。
- (2) 気温の上昇に伴い増殖が盛んになるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

発生量：平年並（県下全域）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は各地域とも平年よりもやや少なかったが、発病程度は中央部で平年よりも高く、東部、西部では平年並であった。
- (2) 5月は平年に比べ晴れの日が多く、降水量は少ないと予想されているため、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

発生量：多（中央部）、平年並（東部、西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。中央部では発生面積が平年に比べ多く、発病程度も高かったが、東部、西部は平年以下の発生であった。
- (2) 5月は平年に比べ晴れの日が多く、降水量は少ないと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 高温、多湿条件下で多発する。発生が蔓延すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) すすかび病

発生量：平年並（県下全域）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県下全域で平年並であったが、発病程度は西部で平年よりも高く、東部でやや高く中央部ではやや低めであった。
- (2) 5月は平年に比べ晴れの日が多く、降水量は少ないと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) タバココナジラミ

発生量：平年並（東部、中央部）、少（西部）

根 抛

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は東部、中央部が平年並、西部は少なかった。発生程度は西部で平年よりも高かったが、その他の地域は平年以下であった。
- (2) 気温の上昇に伴い増殖が盛んになるため、発生が増加する時期ではあるが、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

5 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

発生量：やや多（東部、中央部）、やや少（中西部）

根 抛

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は東部、中央部で平年並、中西部は少なかった。発病程度は中西部で平年並、東部、中央部はやや低めであった。
- (2) 5月は平年に比べ晴れの日が多く、降水量は少ないと予想されているため、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

発生量：多（中西部）、平年並（中央部）、やや少（東部）

根 抛

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中西部で多め、中央部、東部は平年以下であった。発病程度は各地域とも平年以下であった。
- (2) 5月は平年に比べ晴れの日が多く、降水量は少ないと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) 黒枯病

発生量：多（中西部）、少（東部、中央部）

根 抛

- (1) 巡回調査では中西部のみで発生が見られ、発生面積は平年よりも多かったが、発病程度は平年並であった。
- (2) 5月は平年に比べ晴れの日が多く、降水量は少ないと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) タバココナジラミ

発生量：平年並（中央部、中西部）、やや少（東部）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中央部、中西部で平年並、東部でやや少なめであった。発生程度は中西部で高かったが、その他の地域は平年以下であった。
- (2)気温の上昇に伴い増殖が盛んになるため、発生が増加する時期ではあるが、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合は、上位葉を中心に防除を行う。

5) ミナミキイロアザミウマ

発生量：平年並（中央部）、少（東部、中西部）

根 拠

- (1)巡回調査では東部、中央部で発生が見られた。発生面積は中央部で平年並、東部では少なく、発生程度はいずれも低めであった。
- (2)気温の上昇に伴い増殖が盛んになるため、発生が増加する時期ではあるが、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

6) ヒラズハナアザミウマ

発生量：平年並（中央部）、やや少（東部）、少（中西部）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られたが、発生面積はいずれの地域も平年以下であった。発生程度は中央部で高かったが、東部ではやや低く、中西部では低かった。
- (2)気温の上昇に伴い増殖が盛んになるため、発生が増加する時期ではあるが、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

6 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 巡回調査では平年に比べ発生面積は多く、発病程度も高かった。
- (2) 5月は平年に比べ晴れの日が多く、降水量は少ないと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

2) うどんこ病

発生量：やや多（中央部）

根 拠

- (1) 巡回調査では発生面積は平年並であったが、発生程度は低かった。
- (2) 5月は平年に比べ晴れの日が多く、降水量は少ないと予想されているため、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- (2) トマトに発生するうどんこ病は内部寄生性のもの（葉裏に発生する）と外部寄生性のもの（葉表に発生する）の2種類がある。外部寄生性のものは病勢の進展も早く、被害も激しいので早期防除を徹底する。

3) 黄化葉巻病

発生量：やや少（中央部）

根 拠

- (1) 巡回調査では新たな発生は見られなかった。また、媒介虫であるタバココナジラミの発生も少なかった。
- (2) 気温の上昇にともない本病の媒介虫であるタバココナジラミの増殖に好適となるものの、施設内での発生が少ないことから、この状態が続くと考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ（こうち農業ネット）

- ① 病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ② 病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③ 病害虫発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病害虫 etc.